

梓川スマートインターチェンジ フォローアップ資料

令和6年1月30日

フォローアップの内容

- 1) 梓川スマートインターチェンジの概要 P3
- 2) 利用状況について P4～5
- 3) 整備効果について P6～10
- 4) 安全性、管理・運営形態について P11
- 5) 利用促進方策について P12

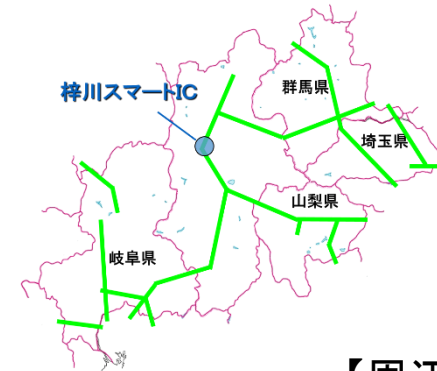
梓川スマートインターチェンジの概要

(1) 場所

中央自動車道長野線（長野自動車道）梓川サービスエリア

＜松本 I C ～ 安曇野 I C 間＞

上り線：長野県安曇野市 下り線：長野県松本市



【周辺位置図】

(2) 供用開始日

平成22年11月27日（土曜日）

(3) 実施時間

24時間利用可能

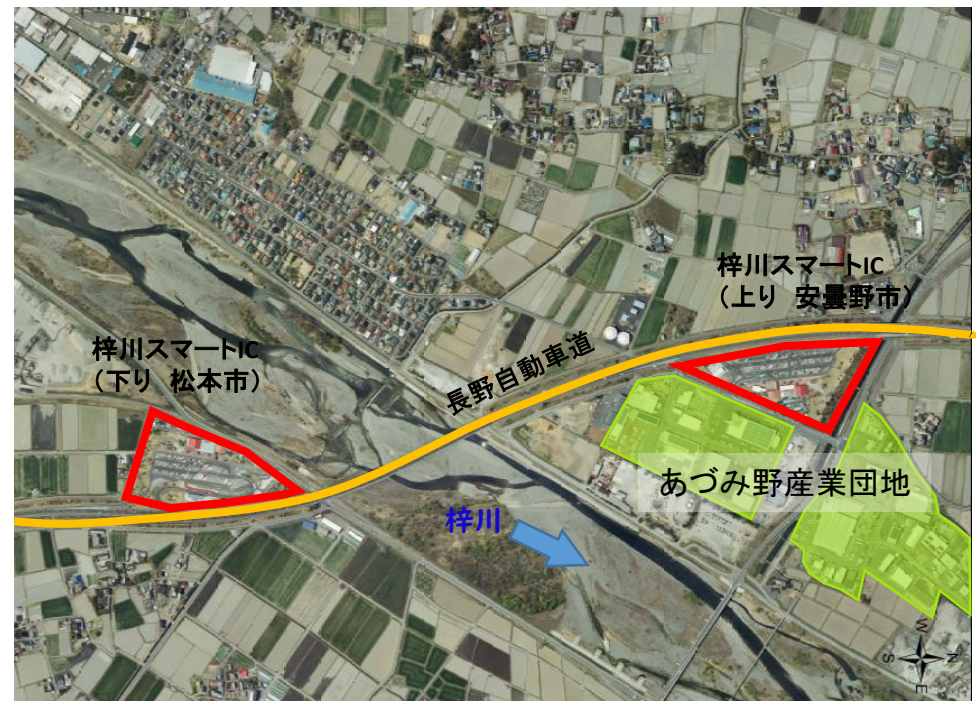
(4) 利用方向

上下線とも両方向利用可能

(5) 対象車種

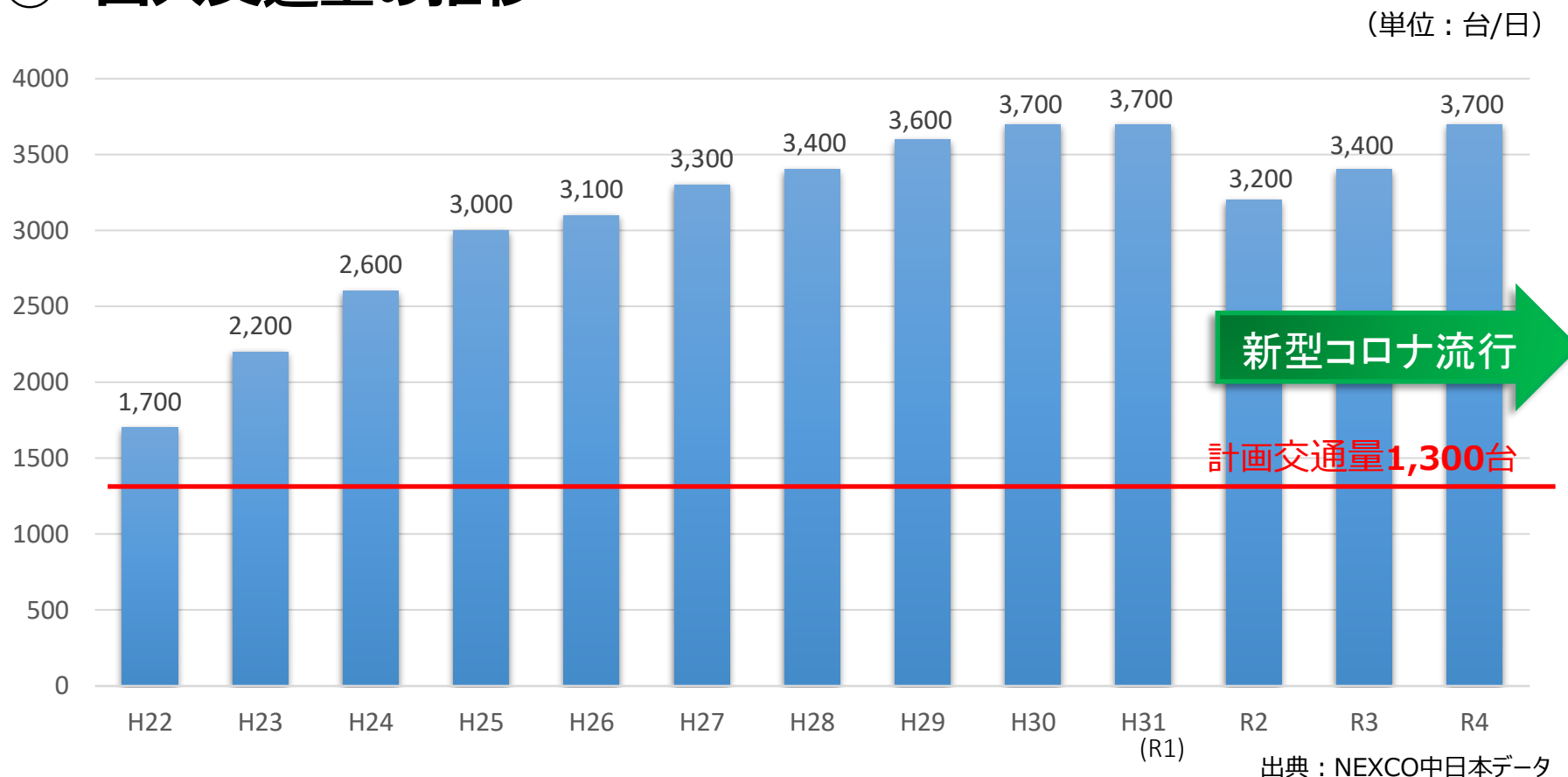
E T C 車載器搭載の全車種

※全長12.0m以下



利用状況について

① 出入交通量の推移

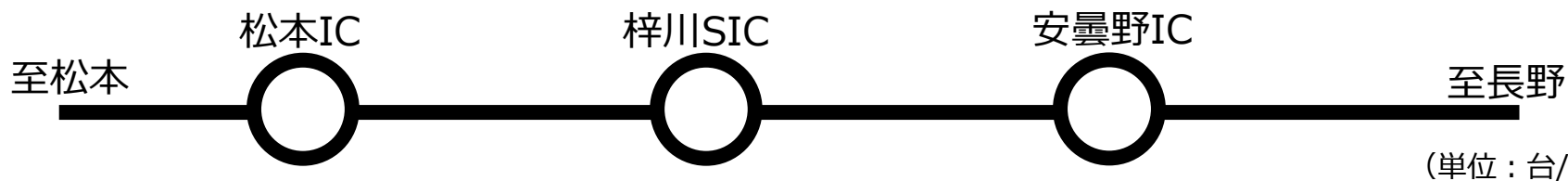


→梓川スマートIC整備後、出入交通量が計画交通量を毎年上回っている。

→コロナ渦によりR2～R3にかけて利用台数が減少。R4にはコロナ渦前の台数にまで回復している。

利用状況について

② 前後ICの出入交通量



	松本IC	梓川SIC	安曇野IC	合計
H21年 (整備前)	19,600	—	15,500	35,100
R1年 (整備後)	19,600	3,700	15,000	38,400
R4年 (整備後)	17,500	3,700	13,900	35,100
H21とR4の 増減	2,100(減)	3,700(増)	1,600(減)	0

出典：NEXCO中日本データ

→松本・安曇野間の交通量は、梓川SICが整備されたことで令和元年までに約3,300台増加している。

令和4年には前後ICの利用台数が減少したため、梓川SIC整備前の利用台数と同数となっている。

→松本・安曇野ICの交通量は年々減少傾向にあるが、梓川SICは整備後から増加傾向にあり、

松本・安曇野ICの利用者が梓川SICへ流動してきていることが考えられる。

整備効果について

企業 アンケート

■ あづみ野産業団地内企業アンケート

- ・ 回答期間 - 令和4年11月21日(月)から
12月9日(金)
- ・ 配布社数 - 27社
- ・ 回収社数 - 16社
- ・ 回収率 - 60%

あづみ野産業団地



■ あづみ野産業団地内企業社数

供用開始直後
(平成23年)

24社

増加



現在
(令和5年9月時点)

28社

整備効果について

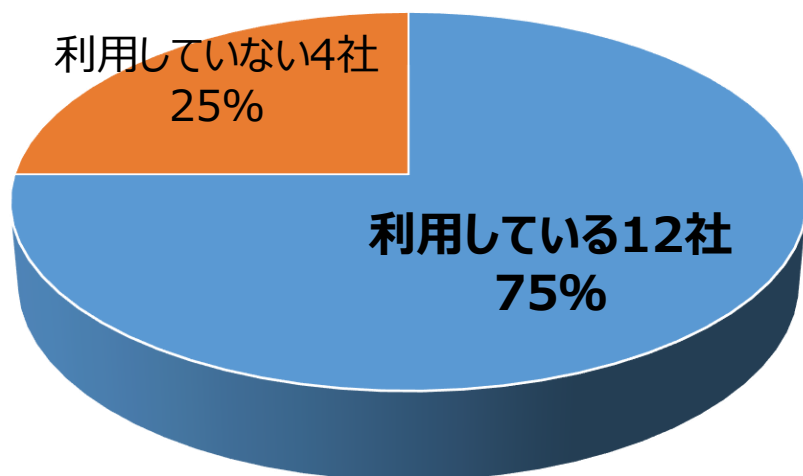
産業活性化
利用促進効果

企業でもスマート I Cの有効利用が図られている

- ◆あづみ野産業団地内企業のうち、12社の企業が梓川スマート I Cを業務で利用している。
- ◆梓川スマートICを利用している企業の多くは、目的地へのアクセス性向上や時間短縮などのメリットを感じている。

業務における梓川スマートIC利用について

企業アンケートより



【全体】

梓川スマートICが近くにあったよかったこと

企業アンケートより

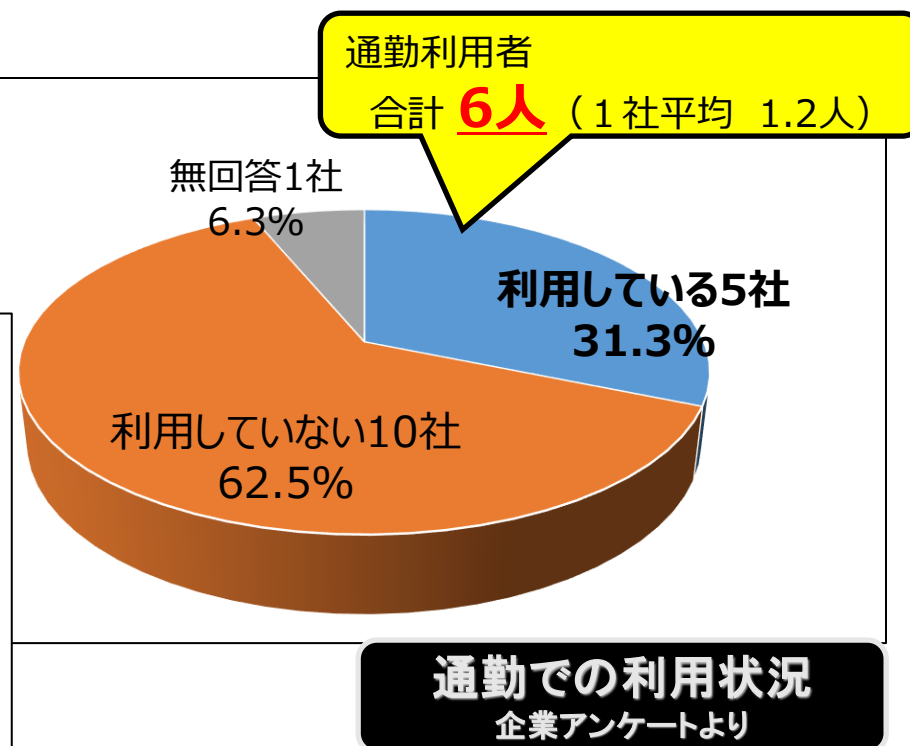
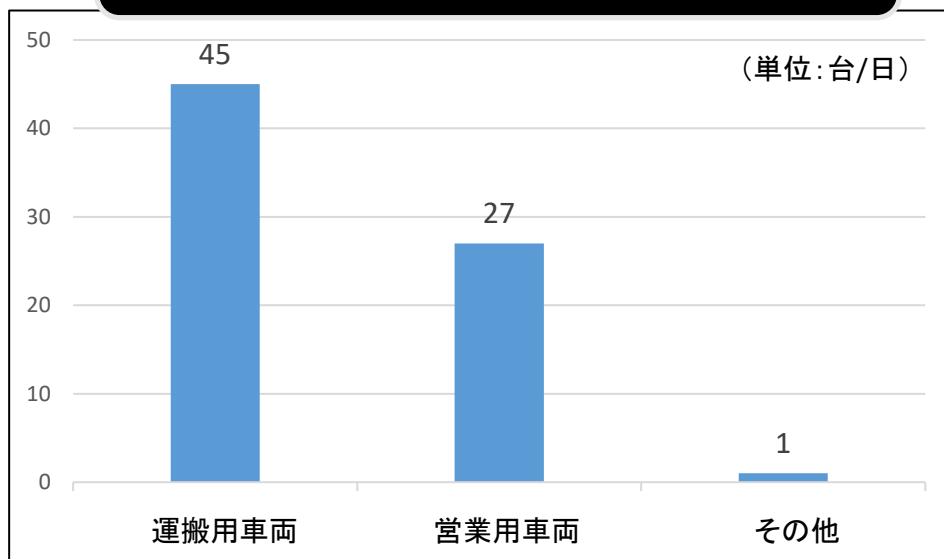
- 事業所・目的地へのアクセス性向上 (15社)
- 目的地への時間短縮 (11社)
- 自社を案内しやすい (9社)
- サービスエリアが利用できる (4社)
- ドライバーの負担軽減 (4社)
- 運送エリアの拡大 (1社)

整備効果について

産業活性化
利用促進効果

- ◆あづみ野産業団地内企業の1日の利用台数は **約73台**で、1社平均6台の車両が梓川スマートICを利用している。そのうち運搬用車両が多い。
- ◆あづみ野産業団地内企業で梓川スマートICを通勤で利用している社員がいる企業は5社あり、1日6人の従業員が通勤利用している。

業務で利用している12社の利用車種
企業アンケートより



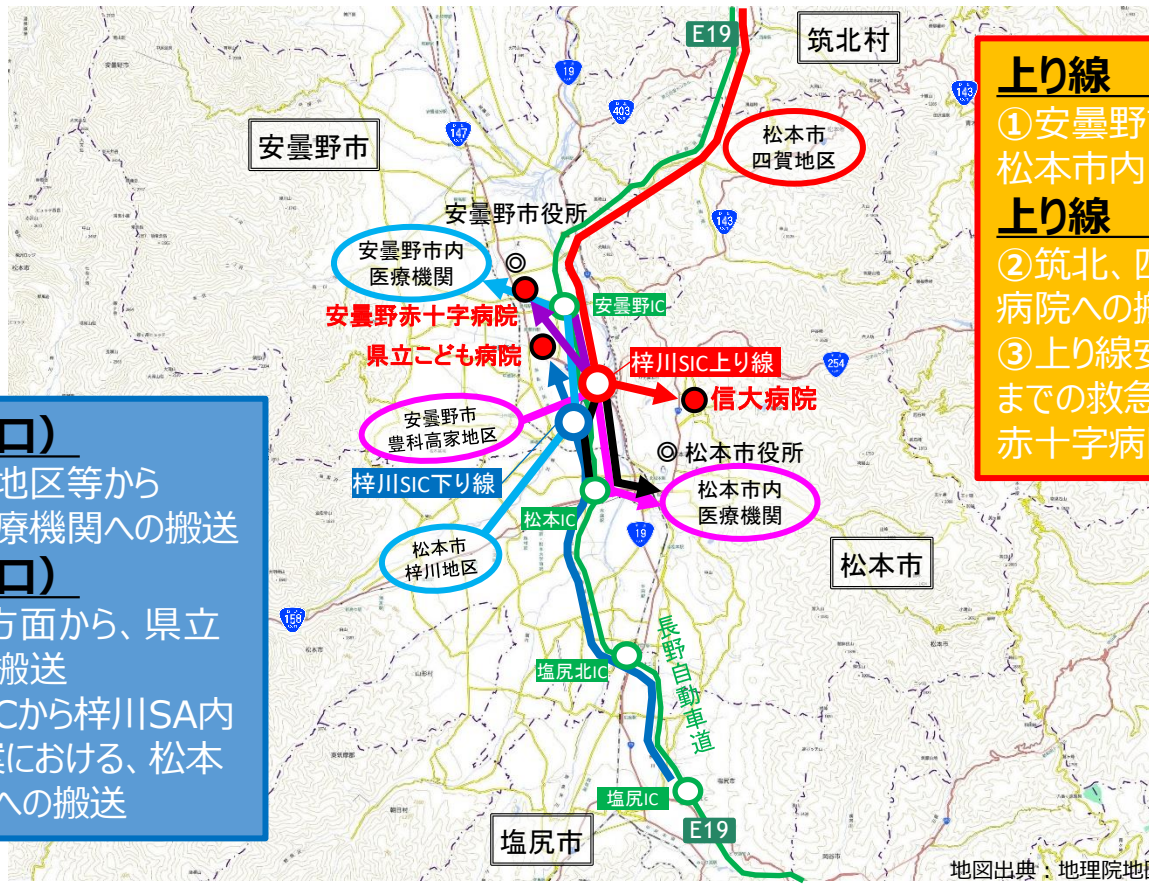
整備効果について

救急・救命活動 利用促進効果

緊急活動での主な利用形態と整備効果は次のとおりである。（松本広域消防局へのヒアリングより）

- ◆医療機関への搬送時間の短縮
- ◆松本市内からの、安曇野市豊科高家地区への現場到着時間の短縮
- ◆高速道路の災害事案に対する帰署までの所要時間の短縮

<医療機関への搬送時間が短縮された経路>



下り線（入口）

④松本市梓川地区等から
安曇野市内医療機関への搬送

下り線（出口）

⑤塩尻・松本方面から、県立
こども病院への搬送

⑥下り線松本ICから梓川SA内
までの救急事案における、松本
市内医療機関への搬送

上り線（入口）

①安曇野市豊科高家地区等から、
松本市内医療機関への搬送

上り線（出口）

②筑北、四賀地区等から、信大
病院への搬送

③上り線安曇野ICから梓川SA内
までの救急事案における、安曇野
赤十字病院等への搬送

凡例

上り線（入口）

① 赤線

上り線（出口）

② 紫線

③ 青線

下り線（入口）

④ 水色線

下り線（出口）

⑤ 濃青線

⑥ 黒線

整備効果について

救急・救命活動 時間短縮効果

松本広域消防局でのヒアリング結果

- ◆安曇野市では『**県立こども病院**』、松本市では『**信州大学医学部附属病院**』への救急搬送の際に高速道路を多く利用されている。
- ◆救急搬送時における安曇野市内、松本市内の医療機関へのアクセス方法が増えたことにより最適ルートで搬送できるようになった。

◆ 県立こども病院への救急搬送

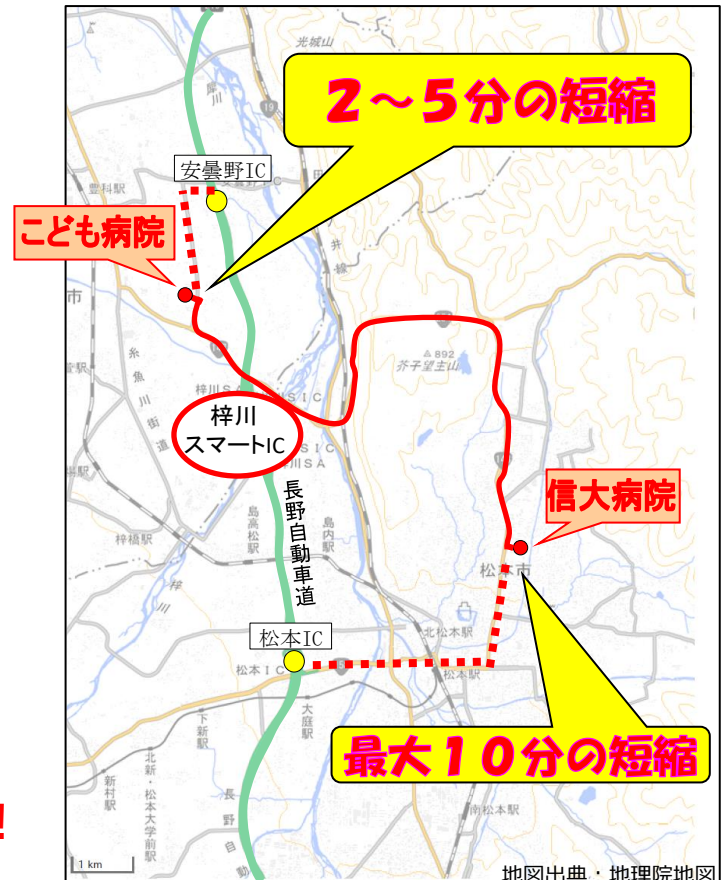
安曇野ICから向かうより **2～5分短縮**。

→東京・名古屋方面から来た場合、安曇野ICまで行く必要がないため大幅な時間短縮が図れる。

◆ 信州大学医学部附属病院への救急搬送

松本ICから向かうより **最大10分短縮**。

→長野方面から来た場合、松本ICまで行く必要がないため、大幅な時間短縮が図れる。また、松本市街地の渋滞を回避できるため、安定して行くことができる。



搬送時間の短縮は重篤者の救命にもつながっている！

安全性、管理・運営形態について

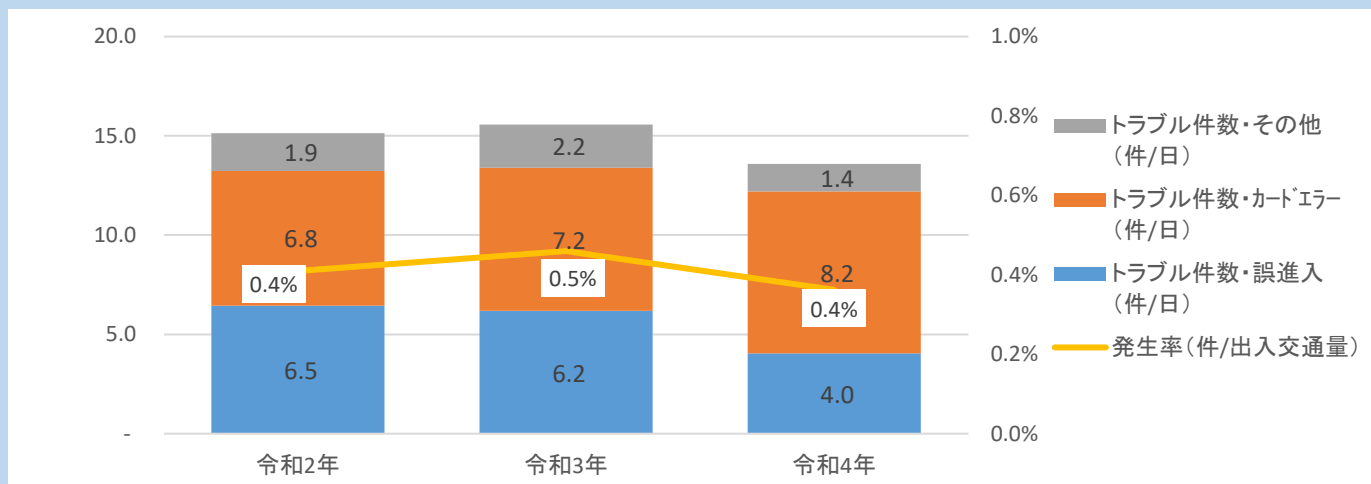
○管理・運営形態

IC名	方向	時間	対象車種	監視体制
梓川スマートIC	上下線両方向	24時間	全車種	遠隔監視（無人）

※監視先は八王子道路管制センター

○トラブル件数推移

- ・発生率は1%未満で横ばいの状況となっている。
- ・中央道のSAPA接続型SICにおける直近3か年の平均発生比率（0.4%）と比較しても同程度である。



○梓川スマートICでの事故件数

- ・スマートICにおける事故は直近3年間発生していない。

利用促進方策について

■これまでの取り組み状況

梓川サービスエリア施設が利用可能に！

(上り線) 平成26年 4月 1日、
(下り線) 平成26年 6月11日よりスマートIC流入後、
梓川SA施設の利用が可能となった。

逆走・誤進入防止対策

「高速道路での今後の逆走対策に関するロードマップ(国土交通省2016.3)」に基づき、令和2年に逆走防止対策と誤進入防止対策を実施。

下り線



上り線



下り線



上り線

